

第 51 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	小山ゼミ	チーム名	PenTax
タイトル	持続的な年金給付のために		
テーマ群	b)財政・金融		
メンバー	大西和貴・橘川司・三軒音於・田中智大・坂東功基・和田英利		
研究計画内容	<p>「研究背景」</p> <p>医療技術の進歩により、平均寿命は、厚生労働省『厚生労働白書』（2020）によると、1990 年は男性 75.92 歳、女性 81.90 歳であったが、2019 年は男性 81.41 歳、女性 87.45 歳と増加している。</p> <p>また、少子高齢化の進行により、年金受給者である高齢者の人口は増加するのに対し、年金の担い手である勤労世代の人口は減少している。その影響により、勤労世代が支払う保険料の金額が上昇傾向にあるのに対し、一人当たりの年金受給額は、年々、低下傾向にある。そのため、このままの状況が長期的に続けば、年金が給付されるかどうかとも怪しいと考えられる。</p> <p>そこで、私たちは、私たちが年金受給者になったときに、持続的に年金が給付されるのかどうかを研究したいと考えた。</p> <p>「研究内容」</p> <p>まず、厚生労働省『2019（令和元）年財政検証結果レポート—国民年金及び厚生年金に係る財政の現況及び見通し—』を参考にし、安定した年金給付が持続するかどうかを考える。ここで、安定した年金給付とは、同レポートに用いられる所得代替率という数値が 50%以上である状態とする。</p> <p>次に、安定した年金給付が持続する場合と、安定した年金給付が持続しない場合について、どちらが実現しやすいかを考える。また、安定した年金給付が持続しない場合に備え、年金制度を見直し、どのような修正を行えば良いか、私たちに考えてみる。</p> <p>「期待される効果」</p> <p>大した提言をできるわけではないので、効果はないと述べたいが、上記したように、安定した年金給付を受け取れないのは、年金を受け取るのがずっと先のことだと思っている世代である。このような若い世代が少しでも年金の現状について興味を持つことを、私たちは願っている。</p> <p>「参考資料」</p> <p>『2019（令和元）年財政検証結果レポート—国民年金及び厚生年金に係る財政の現況及び見通し—』 厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000093204_00002.html</p> <p>『令和 3 年版厚生労働白書 資料編 年金』 厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/20-2/ など</p>		